

福岡市が市民意見の募集中

福岡市は人工島事業と市立病院統合移転に関する検証・検討の中間報告を発表し、意見募集を
始めました。この報告についての日本共産党福岡市議団の見解を紹介します。

福岡市は6月14日、「アイランドシティ整備
備事業及び市立病院統合移転事業検証・検
討中間報告」を発表した。今回の事業検証
は、吉田市長の公約である「人工島事業の大
胆な見直し」の具体化である。ところが、中
間報告の内容は市民の期待を裏切るものと
言わざるを得ない。

(1)

人工島事業の検証は、これまでの事業計
画の一部に疑問や懸念を指摘したものの、
基本的には従来の計画を変更することなく
推進することを打ち出している。

■人工島の破たんを認めた

中間報告は、事業の進捗状況と成果・将来
見通しと事業収支計画の検証を行ったうえ
で、「企業立地の見込みが不透明、市5工区
の方向性が不明確、事業収支の安定性への
懸念」などを課題として挙げた。これは、わ
が党が指摘してきた人工島事業の破たんを
市が認めざるを得なくなったことを示して
いる。

■あくまでも人工島を推進

一方で、中間報告は、今後の検討の方向性
として、あくまでも人工島事業を推進する
ことに固執している。「企業ニーズに対応し
た企業立地誘導手法」は、今全国で問題と
なっている巨額の税金を大企業につき込む
補助金の創設に道を開くものではないか。
「鉄道、自動車専用道路の構想も含めた交通
基盤整備」は、人工島への破たん救済で、採
算的にも無謀なムダな大型開発に新たに手
を付けることになる。これらは、市民が最も
批判している人工島への新たな税金投入に
他ならない。

■「黒字」は机上の空論

福岡市工区の収支計画の「検証」は、合計
141万7千㎡もの広大な土地を売却処分
する当初計画を何ら見直さず、「コンテナ

ターミナル使用料とあ
わせて最終的に208
億円の黒字になること
が示されているが、20年
間も毎年4万59万㎡
の土地が売れ、しかも処
分単価が上がり続ける
という見通しは、まさに
机上の空論以外の何も

でもない。現実には、人工島の竣工済みの
産業用地や香椎パークポート同様、土地が
売れずに塩漬けのまま放置され、借金だけ
が膨らむことになり、結局収支を「安定」さ
せようとすれば公共施設を導入し税金で土
地を買うことが不可避となる。そのなかで
浮上している青果三市場の人工島移転は12
万㎡の土地処分が目当てではないのか。

■さらなる税金投入へ

博多港開発工区についても、住宅市街地
総合整備事業の導入による道路整備の税金
肩代わりを続けることが示されており、無
駄な開発推進の第3セクター・博多港開発
を税金によって救済する仕組みを温存しよ
うとしている。

さらに、中間報告では、ケヤキ・庭石事件
に表れた巨大大公共事業・人工島をめぐる政
官業の利権あさりの構図に対する検証が全
く欠如している。政官業の構造的癒着こそ、
巨大大公共事業による税金・公金の無駄づか
いをやめられない温床となっており、その
徹底究明に指一本触れない態度は許されな
い。

■「大胆見直し」にはほど遠い

このように、今回の「検証」は「大胆見直
し」には程遠いものであり、市長が公約を投
げ捨てたものと厳しく指摘しなければなら
ない。
(ウラ面へ続く)



人工島事業の検討は市民参加で

そもそも「アイランドシティを将来にわたる市民の貴重な財産としていくために：検証し」「アイランドシティに対する市民の理解を深めるとともに、まちづくりや土地処分が効果的かつ効果的に促進される方策について検討を行う」と明記されている「検証」の目的が問題である。すなわち、この検証そのものが、人工島事業の縮小や凍結を最初から排除し、事業推進を合理化するためのものであり、その結論を市民に押し付けて「理解」させることを目的にしており、これでは市民の納得は得られない。

市民が求めているのは人工島事業の推進を前提にした「検証」ではなく、抜本的な見直しである。2年前に8万4千人の市民が住民投票を直接請求したように、人工島事業の継続の賛否そのものに市民意見を反映させることである。

■市民の期待にこたえる3つの提案

そこでわが党は、人工島事業の「検証」を抜本的に改めて市民の期待にこたえるものとするよう、以下の点を提案する。

①埋め立て事業は未着工部分(岸壁含む)と未竣工部分の建設工事を凍結すること。そうすれば、建設費を抑制し、土地処分積も少なくなるとも約50万㎡縮小することができる。②税金投入を中止すること。市立病院や青果三市場の移転も含め、すべての破たん救済措置をやめれば、無駄な税金を投入することが避けられる。③人工島事業の検証は、住民投票あるいはアンケートなど市民参加と意見反映を徹底すること。

(2)

■市立病院の統合移転は「再検討」

市立病院・こども病院の統合移転については、人工島移転計画を保留し、現地建替えも含めて再検討することが示された。

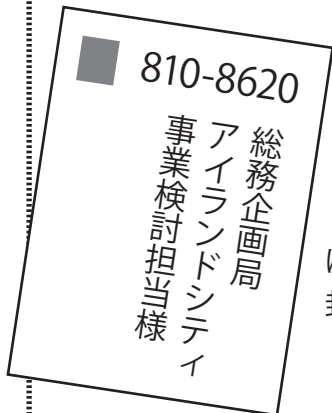
これは、市民の強い反対世論とわが党の主張を受けて、既定方針であった移転計画を白紙に戻したものである。

一方で、2病院の民営化も選択肢に盛り込むなど、これまで市が果たしてきた地域医療・こどもの専門医療に対する公的責任を放棄する方向性を打ち出したことは重大である。

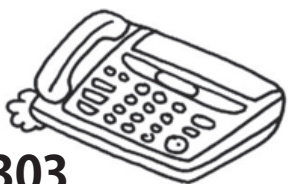
■人工島移転はきっぱり断念せよ

市立病院とこども病院はそれぞれ存続させて、統合と人工島への移転はきっぱり断念すべきである。同時に、改善・充実については経営効率の観点だけでなく、市民に必要な医療を保障する自治体病院としての役割と責務をふまえて、検討すべきである。

日本共産党市議団は、人工島のこれ以上の開発と、その破たん救済への税金投入をきっぱり中止させるため引き続き奮闘する決意である。



はがき、封書で



ファクス
733-5303

7月27日(金) しめきり

福岡市は「中間報告」に対する意見・提案を募集しています。

「中間報告」は、市役所、区役所で配布しているほか、市のホームページでも見ることができます。

意見募集の書式は自由。住所・氏名を記載のうえ、郵送かファクス、メール、区役所窓口でも受け付けています。

市は意見をまとめ、9月に「報告」を公表する予定です。

「意見募集」にあなただの意見を



大企業奉仕・税金ムダづかいの政治をあらため、
国保料一人1万円引き下げ、最低賃金時給1000円以上など、暮らし応援を